

農学研究科博士課程前期課程の紹介

1. 農学研究科の理念と目標

農学は、自然及び人工生態系の保全を図り、衣食住のもととなる生物資源の生産・管理・利用と開発を通じて人間社会に貢献する「持続共生の科学」を理念としています。この農学理念の実現に向かう教育研究組織としての農学研究科は、「食料・環境・健康生命」に関わる諸問題を総合的に教育研究することを基本目的とし、各キーワードに対応した以下の3専攻で組織されています。

- (i) 食料共生システム学専攻は、農業工学及び農業経済学の知識と技術を協働し、食料の生産者と消費者が環境保全型持続社会を通して共生するための生産基盤構築から流通・消費に至る全プロセスの体系化を教育研究の目的としています。
- (ii) 資源生命科学専攻は、人類生存の根本的課題である食料生産の質と量の向上を図るため、動植物遺伝資源の探索・開発と改良を担い、21世紀の食料生産に貢献することを教育研究の目的としています。
- (iii) 生命機能科学専攻は、農業と食料の基本となる生命現象を生物学・化学の両面から解明し、農産物および食品の安全性向上と機能開発を通して人の健康の維持・増進に貢献することを教育研究の目的としています。

農学研究科の大学院教育においては、これら専攻の専門性を発展・進化させるとともに、各専攻に学際性と総合性をビルトインし、専攻間で単位の互換や情報の交換による複眼的な見方や思考力を培う教育研究を展開します。このことにより、独創的な学術研究と科学技術開発を担う優れた研究者・教育者や指導的役割を担う高度専門職業人など、地域・国際社会で活躍できる人材を育成することを目指しています。

2. アドミッション・ポリシー（入学者受入れ方針）

農学研究科博士課程前期課程では、それぞれの専攻分野において幅広い知識を有し、問題解決能力と学際的視点をもった国際性及び創造性豊かな人材を養成することを目指しています。このため、農学分野の堅実な基礎学力を持つ人、論理的な思考能力に優れた人、知的好奇心に富み農学に対し探求心や高い学習意欲をもつ人、さらには、産業社会や公的機関で農学の知識をさまざまな形で活用したい人などを受入れます。

3. 前期課程教育の特色

- (1) 「食料・環境・健康生命」に対応した研究科内横断型のコア科目を履修することによって、農学の幅広い素養と学際性を身につけることができます。
- (2) 専攻の前期課程授業科目は、より専門的な後期課程の授業科目とつながるように体系化されています。
- (3) 授業科目「プレゼンテーション演習」を履修することによって、研究成果をまとめる能力、発表する能力、表現する能力を身につけることができます。
- (4) アジア地域の持続的食料生産と環境保全に関する授業科目を履修することによって、国際的視野から活躍するリーダーとしての素養を身につけることができます。

4. 取得できる学位と後期課程への進学

一定の単位を修得し、修士論文審査に合格した学生は、修士（農学）の学位を取得することができます。また、前期課程を修了した学生が引き続き後期課程に進学する場合には、後期課程への入学金は必要ありません。前期課程において優れた研究業績をあげた学生は1年以上の在学で修了し、後期課程に進学することができます。